

令和元年、センター職員初
心に返って頑張ります。

鳥獣被害対策について御相談
したいことがありましたらお気軽に
声をかけてください。

鳥獣被害対策支援センターは
総合農業試験場本館三階にあり
ます。

(日高センター長)



(宮坂主査)



(井上雅史氏)



(若佐主査)



(川口専門技師)



(新任)

本年3月末で鳥
獣被害対策スペ
シャリストを退任
されました。長年
の御指導ありがとうございました。

令和元年の鳥獣被害対策支援センター

重点取組です。

①被害対策の技術的支援

- ・モデル集落活動支援
- ・適切な防護柵設置・管理方法の支援
- ・実証展示ほの設置による技術普及等

②人材の育成

- ・マイスター養成研修(3日間)
- ・技術向上研修(3回)
- ・電気柵、中小型獣対策、捕獲等
- ・市町村職員基礎研修(1回)

③被害対策に関する調査・研究

- ・新技術の実証
 - ・先進地調査による情報収集・提供
- ★昨年とほぼ同様の課題ですが、より充実した取組を目指します。

技術向上研修(電気柵)を開催します。

①対象者

- ・マイスター認定者及び対策指導に携わる関係機関、団体の職員等

②日時

令和元年六月十二日(10~15時)

③場所

総合農業試験場研修棟及びほ場

④内容

電気柵システムについて(理論・設置・使用方法の講義・実習)

⑤講師

タイガー株式会社九州支店 井村翼氏

平30研修風景

(電気柵設置実習)



今年度のモデル実証展示ほの取組を募集します。

地域で問題になっている鳥獣被害について、地域と鳥獣センターが一体となって対策を検討・実施し、その効果を検証して普及を図るものです。

被害対策に必要な資材は提供することが可能ですので、各地域特命チーム内での早めのご検討をお願いします。

(昨年度の取組事例)

★音響式クラス追い払い機を活用した牛舎周辺のクラス追い払い(日南市)

★被害防止柵(電楽くん)設置によるキャベツ畑のサル・イノシシ・シカ対策(延岡市)

★防鳥網・ハードパンチャー等によるキャベツ畑のヒヨドリ対策(延岡市)

先進地情報(熊本県玉名市)

みかん団地における

イノシシ被害対策

みかん団地の生産者グループが、イノシシの習性を勉強した後、「ひそみ場所をなくす」「柵の外に枝をたさなしい」等、園地の環境整備を行った上で適切な電気柵の設置や維持管理を行ったことにより被害を防止することができた事例です。詳細は別紙を御覧ください。

被害対策に関する問合せ

西日杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

児湯地域



①輸送試験の状況

西米良村では、中山間地域所得向上支援事業を活用してジビエ処理加工施設を整備し、西都・児湯地域におけるジビエ活用のビジネスモデルの創出に向け、平成29年度からジビエの広域輸送の検証を行っています。平成30年度は、猟友会との意見交換、都農町や西米良村、処理加工事業者等とジビエ活用に向けた協議を行うとともに、3回の輸送試験を実施しました。輸送試験では、シカを捕獲後、放血及び内臓摘出を行い、2〜6日間冷蔵保管後に西米良村へ輸送し、剥皮や枝肉処理等を行いました。

輸送試験のサンプルについては、後日、細菌検査や食味試験を実施しました。細菌検査については、基準を大きく下回るとともに、食味についても個人差はあるものの、食用として問題ないレベルと判断されました。



③輸送試験サンプル食味試験



②ジビエ活用に係る検討

今後、プロのシェフによる食味試験も実施する予定です。次年度は、高鍋保健所からの助言も踏まえ、より高い衛生レベルでの輸送試験を実施するとともに、取引価格を見据えたコストの検証も行い、サテライト処理施設の実現に向けた取組を進めて行くこととしています。

南那珂地域

南那珂管内の鳥獣被害は、イノシシとサルの被害が過半を占めており、これまで二ホンシカの生息は認められていませんでした。しかし近年、管内で二ホンシカの目撃が相次ぐようになっており、今年1月に日南市郊外の県道沿いで2頭が写真に撮影されるなど、目撃情報が増加しています。これまで角が生えたオスのシカが目撃されましたが、写真のシカは角が見えませんでした。メスのシカとその子かもしれません。メスのシカは串間市内でも目撃されているため、管内での繁殖と定着が非常に警戒されます。

このような目撃情報の増加を受けて、県では今年3月に緊急の対策会議を開き、市や猟友会、森林管理署の担当者との間で情報交換と今後の対策等について協議しています。会議では、関係者による情報共有を密にすること、農林家等への注意喚起を進めること、猟師による捕獲を促進することとしました。

この会議の結果を受けて、普及センターでは注意喚起の資料を作成し、3月の水稲生産実施計画の受付の機会を利用して、シカが目撃された日南市北郷町の農家約120戸に注意喚起の資料を配付しています。町内でシカが目撃されたことに驚く農家も多くおられました。

これまでのところ管内ではシカによる農林作物被害は認められていませんが、一度定着すると甚大な被害が懸念されますので、今後農林業者が集まる機会を利用して注意喚起を図っていきます。また、今年の猟期前にはシカの捕獲講習も開催する予定です。



写真 日南市郊外で撮影されたシカ

シカの侵入に警戒してください!

- 日南、串間では生息していないとされていたシカが最近、相次いで目撃されています。
 - 一旦定着すると農林作物の被害が拡大するため、警戒が必要です。
- ◎ シカ被害の危険信号



- このような痕跡が見られたら要注意!
- 1 シカの生態
- ・草食性で植物はほとんど何でも食べる。冬期は道路脇や畦畔などに芽吹いた緑草を好んで食べる。
 - ・屋間は山中、夜は集落等で採食する。
 - ・出産期は5〜6月頃。メスの初産は2歳から。毎年1頭出産。
 - ・寿命はメス6〜8年、オス4〜6年。
- シカが増えることで生活被害も多くなる ○
・身近にヤマビルやマダガが増えます。

農家に配付した注意喚起の資料